守れ!イチモンジタナゴプロジェクト 2019 報告書①

開催日:平成31年4月20日(土)

時間:13時30分~15時15分

場所:レクチャールーム、イチモンジタナゴ飼育場

参加人数:12名中12名

運営スタッフ:佐々木, 釜鳴, 中原, 伊藤 (英), 瀬古

内容:

・プロジェクトについてのオリエンテーション

- 自己紹介
- 水質検査
- イチモンジタナゴの観察
- ・タライ水槽立ち上げ

今年も始まりましたこのプロジェクト!今年は全5回, 12名のメンバーで活動していきます!



まずは自己紹介。一人ずつ、このプロジェクトに対する 思いをお話していただきました。

これからの活動を、わたしたち職員も含め、みんな楽しみにしていることが伝わってきました!



次は、イチモンジタナゴとはどんな魚なのか?そして 京都市動物園とはどんな関係なのかをお勉強しました。 二枚貝のエラに産卵するおもしろい性質があること、その 二枚貝も、成長の段階で他の魚に寄生することなどから、 イチモンジタナゴの保全は、周りの環境全体の保全にもな ることを学びました。

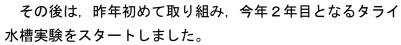
みなさん熱心に聞いていただきました。



次は、魚を飼育する際にとても大切な作業である、水質検査のやり方を実際に見てもらいました。これから毎回自分たちで水質検査をすることになるため、教える側も教わる側も 真剣です。







まずは、各グループで、一つのタライに入れるイチモンジタナゴのオスとメス、そして産卵のための二枚貝の数を相談します。

この比率が今後の繁殖にとても大きく関わるため、みんな 真剣に話し合っていました。

昨年は残念ながらどの水槽も稚魚が生まれなかったため、 今年こそは!という思いから、貝や水草、隠れ場となる石 のレイアウトにもこだわりが見られました。

次はいよいよ、外に出てタライ水槽の立ち上げです。 昨年は猛暑で水温が上がり、魚や貝にとっては厳しい環境 となった事から、今年は少しでも水温の変化がゆるやか になるように、タライを深く土に埋めてみました。



まずは、イチモンジタナゴのオスとメスの観察です。 オスとメスの見わけ方などの説明を聞きながら実際に 観察し、ワークシートに書き込んでいきます。 「産卵管は、知らないとフンにしか見えないね!」 「オスの追星(繁殖期にオスの顔にできるプツプツ)が あったよ!」と、みんな楽しそうに観察していました。 これから毎月、繁殖期特有の体の変化が見えてくると面白 いなと思います。



これは、オスたち。ブルーとピンクのラインがきれいです。



タライに生き物を入れる前に、さっそく 水質検査。意外とむずかしい…



砂利を入れたトレーに貝を入れ, タライ に入れます。



隠れ場になる大きめの石の配置も考えて置き…



水草もたくさん植えました。



タナゴをすくってタライにうつします。



できあがったタライ水槽を観察します。 居心地はよさそうかな?

今回の活動はここまでです。

ちなみに、各グループのオス、メス、貝の比率はというと・・・・

(イチモンジタナゴはオスメスそれぞれ最高で3匹ずつ、貝は最高4つです)

・第1グループ オス1:メス2:貝3
・第2グループ オス3:メス3:貝4
・第3グループ オス2:メス3:貝4

です。

それぞれ、タナゴや貝たちの気持ちになって選んだ数です。さて、どの水槽が一番多くの稚魚を得ることができるでしょうか?

今年もこのプロジェクトをスタートさせることができ、とても嬉しく思っています。昨年は繁殖できなかったのですが、今年は昨年の経験を活かし、たくさんの稚魚が生まれることを願っています。

次回以降もタライ水槽実験は続けて、さらに園内の噴水池や、動物園のまわりの環境にアプローチする 活動を、メンバーの皆さんと楽しく行っていこうと思います!